

第 2 期朝来市創生総合戦略の変更 新旧対照表 (案)

| 項目名 | 変更前 | 変更後 | 変更の説明等 |
|---|---|--|---|
| <p>第 1 章 人口の目標</p> <p>I 将来人口を見据えた朝来市の政策形成について</p> | <p>第 1 章 人口の目標</p> <p>I 将来人口を見据えた朝来市の政策形成について</p> <p>人口減少が深刻化する中で、朝来市では、第 2 次朝来市総合計画（計画期間：平成 26（2014）年度～令和 3（2021）年度）（以下「第 2 次総合計画」という。）において、全国に先駆けて人口減少を市政運営の最重要課題として提示し、人口目標を定め、若者世代を軸とした次世代につながるまちづくりを展開してきました。</p> <p>また、この第 2 次総合計画の考え方及び人口目標を踏襲し、平成 27（2015）年度に第 1 期朝来市創生総合戦略（計画期間：平成 27（2015）年度～令和元（2019）年度）（以下「第 1 期市総合戦略」という。）を策定し、人口減少の克服と朝来市創生に取り組んできました。</p> <p>この第 2 次総合計画前期基本計画による人口目標は、人口政策として「できる限り社会増減ゼロに近づけていく取組を進める」ことを前提とする中で、社会増減を 0 とする「封鎖型」により算出した推計人口に基づいたものでした。しかしながら、人口減少がより加速している現状の中で、社会増減を 0 とするのは現実的ではないことから、第 2 次総合計画後期基本計画の策定段階において、「15 歳—49 歳の社会減少率」を 10%抑制、「25 歳—29 歳世代の回帰率」「19 歳—44 歳世代の女性の出生率」をそれぞれ 10%向上、「65 歳—90 歳世代の生存率」を 1%向上させることとして算出した人口に基づき、人口目標を「21 世紀中頃の人口を概ね 25,000 人」を「21 世紀中頃の人口を概ね 20,000 人」に修正しました。この人口目標を踏まえ、朝来市では、人口政策による地域力の向上に向けて、まちづくりを展開しています。</p> | <p>第 1 章 人口の目標</p> <p>I 将来人口を見据えた朝来市の政策形成について</p> <p>人口減少が深刻化する中で、朝来市では、第 2 次朝来市総合計画（計画期間：平成 26（2014）年度～令和 3（2021）年度）（以下「第 2 次総合計画」という。）において、全国に先駆けて人口減少を市政運営の最重要課題として提示し、人口目標を定め、若者世代を軸とした次世代につながるまちづくりを展開してきました。</p> <p>また、この第 2 次総合計画の考え方及び人口目標を踏襲し、平成 27（2015）年度に第 1 期朝来市創生総合戦略（計画期間：平成 27（2015）年度～令和元（2019）年度）（以下「第 1 期市総合戦略」という。）を策定し、人口減少の克服と朝来市創生に取り組んできました。</p> <p>この第 2 次総合計画前期基本計画による人口目標は、人口政策として「できる限り社会増減ゼロに近づけていく取組を進める」ことを前提とする中で、社会増減を 0 とする「封鎖型」により算出した推計人口に基づいたものでした。しかしながら、人口減少がより加速している現状の中で、社会増減を 0 とするのは現実的ではないことから、第 2 次総合計画後期基本計画の策定段階において、「15 歳—49 歳の社会減少率」を 10%抑制、「25 歳—29 歳世代の回帰率」「19 歳—44 歳世代の女性の出生率」をそれぞれ 10%向上、「65 歳—90 歳世代の生存率」を 1%向上させることとして算出した人口に基づき、人口目標を「21 世紀中頃の人口を概ね 25,000 人」を「21 世紀中頃の人口を概ね 20,000 人」に修正しました。この人口目標を踏まえ、朝来市では、人口政策による地域力の向上に向けて、まちづくりを展開してきました。</p> <p><u>このように、人口減少を市政運営の最重要課題として提示し、人口政策に取り組んできましたが、令和 2 年国勢調査結果では概ね人口指標のとおり推移していることから、今までどおり人口政策は継続しながらも、新たな時代を見据え、持続可能なまちづくりに向けて、市民とともに新しい活力と魅力を創造する第 3 次朝来市総合計画（計画期間：令和 4（2022）年度～令和 11（2029）年度）（以下「第 3 次総合計画」という。）を策定し、まちづくりを展開しています。</u></p> | <p>○第 2 期市総合戦略の策定後に、第 3 次総合計画を策定しているため、第 3 次総合計画について追記する。</p> |

| | | | |
|--|--|--|---|
| <p>II 朝来市の人口目標について</p> | <p>II 朝来市の人口目標について 朝来市の人口目標は、<u>第2次総合計画後期基本計画において目標とした「21世紀中頃の人口を概ね20,000人」を維持することとします。</u></p> | <p>II 朝来市の人口目標について 朝来市の人口目標は、<u>第3次総合計画において目標とした「令和32（2050）年に20,000人」を維持することとします。</u></p> | <p>○第3次総合計画で設定した人口指標に変更する。</p> |
| <p>第2章 戦略 I 基本的な考え方 1 朝来市の創生</p> | <p>第2章 戦略 I 基本的な考え方 1 朝来市の創生 朝来市では、第2次総合計画に基づき、人口政策を最重要課題として位置付け、人口減少傾向を少しでも和らげるため、朝来市に人が集まり、留まるまちづくりを進めるとともに、第1期市総合戦略の推進を図ってきました。 さらに、第2次総合計画後期基本計画では、できる限り社会減少を抑制する取組を進めながらも、人口が減少していく将来を見据え、今よりも人口が少なくなっても朝来市民が幸せに暮らしていけるために朝来市全体の地域力の維持、向上と効率的な行政運営を目指してまちづくりを進めています。 第2次総合計画等の基本的な考え方を踏襲し、朝来市創生を成し遂げるため、第1期市総合戦略の検証を踏まえながら、国が策定した「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第2期国総合戦略」という。）の基本的な考え方や政策5原則等を基本に、朝来市におけるまち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目標に、「第2期朝来市創生総合戦略」（以下「第2期市総合戦略」という。）を策定します。</p> | <p>第2章 戦略 I 基本的な考え方 1 朝来市の創生 朝来市では、第2次総合計画に基づき、人口政策を最重要課題として位置付け、人口減少傾向を少しでも和らげるため、朝来市に人が集まり、留まるまちづくりを進めるとともに、第1期市総合戦略の推進を図ってきました。 さらに、第2次総合計画後期基本計画では、できる限り社会減少を抑制する取組を進めながらも、人口が減少していく将来を見据え、今よりも人口が少なくなっても朝来市民が幸せに暮らしていけるために朝来市全体の地域力の維持、向上と効率的な行政運営を目指してまちづくりを進めてきました。 第2次総合計画等の基本的な考え方を踏襲し、朝来市創生を成し遂げるため、第1期市総合戦略の検証を踏まえながら、国が策定した「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「第2期国総合戦略」という。）の基本的な考え方や政策5原則等を基本とし、さらに、<u>第3次総合計画や国が新たに策定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」（以下「第3期国総合戦略」という。）の基本的な考え方を加え、朝来市におけるまち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目標に、「第2期朝来市創生総合戦略」（以下「第2期市総合戦略」という。）を策定します。</u></p> | <p>○国は、第2期国総合戦略の流れをデジタルの力を活用して継承・発展させていくため、第2期国総合戦略の計画期間を2年間前倒しし、第3期国総合戦略を策定した。この第3期国総合戦略の基本的な考え方を、今回の第2期市総合戦略の改正に反映させるため、追記する。</p> |
| <p>2 計画期間</p> | <p>2 計画期間 第2期市総合戦略は、令和2（2020）年度を初年度とする今後<u>5か年</u>の戦略として策定します。 ■戦略の期間：令和2（2020）年度～令和6（2024）年度</p> | <p>2 計画期間 第2期市総合戦略は、令和2（2020）年度を初年度とする今後<u>6か年</u>の戦略として策定します。 ■戦略の期間：令和2（2020）年度～令和7（2025）年度</p> | <p>○総合計画と総合戦略の両計画には互いに「戦略的かつ一体的に推進」と記載されているが、両計画の計画期間が異なっている。今まで以上に「戦略的かつ一体的に推進」することを目的に、2つの計画を統合することとし、第3次総合計画基本計画期間とあわせるため、第2期市総合戦略の計画期間を1年間延長する。</p> |

| | | | |
|---------------------------|--|--|---|
| <p>II 基本方針 1 基本理念</p> | <p>II 基本方針 1 基本理念 朝来市の未来を創っていくのは、朝来市に関わる「ひと」です。今の朝来市を支えている「ひと」や、これから朝来市を担っていく「ひと」、そして、将来、朝来市に移り住んだり、朝来市のファンになる「ひと」、これらの「ひと」がシビックプライド（まちへの愛着・誇り・当事者意識に基づく自負心）を持ち、朝来市の持続的な発展を図る必要があります。 「ひと」の創生、「しごと」の創生、「まち」の創生を支えるのは、すべて「ひと」であり、「ひと」が朝来市創生の基盤となります。 一人一人が大切な存在である「ひと」を重視し、誰もが心豊かに生き、働き、暮らせる社会の実現を目指し、「ひと」づくりの視点を朝来市創生の全てに共通する視点に据えます。 “自分らしく生き生きと活躍する「ひと」”をつくり、その「ひと」が“魅力ある多様な「しごと」”をつくり、その「ひと」と「しごと」が、“誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」”をつくり、その「まち」が、「ひと」を呼び込むという好循環の確立を目指し、「対話」と「協働」を大切にしながら朝来市創生に取り組みます。</p> | <p>II 基本方針 1 基本理念 (略)</p> | |
| <p>2 政策5原則</p> | <p>2 政策5原則 朝来市創生を確実に実現するため、国が定めた政策5原則を踏まえながら、さらに、市民をはじめとする多様な主体との協働、政策間連携及び地域間連携を強化して、施策を展開します。 (1) 自立性 朝来市に関わる「ひと」を中心として、その「ひと」の活力を積極的に活用しながら、継続的に朝来市創生に向けた施策を展開します。この施策を一過性のものとせず、構造的な問題に対処し、民間事業者・個人等の自立につなげていきます。 (2) 将来性 自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組める施策に重点を置きます。また、今後の社会情勢等を見据えながら施策を展開します。 (3) 地域性 朝来市が持つ、特色ある豊かな地域資源を強みとして活用する施策を展開します。</p> | <p>2 政策5原則 朝来市創生を確実に実現するため、国が定めた政策5原則を踏まえながら、さらに、市民をはじめとする多様な主体との協働、政策間連携及び地域間連携を強化して、施策を展開します。また、<u>取組の加速化・深化を図るために、デジタルの力を活用し施策を展開します。</u> (1) 自立性 朝来市に関わる「ひと」を中心として、その「ひと」の活力を積極的に活用しながら、継続的に朝来市創生に向けた施策を展開します。この施策を一過性のものとせず、構造的な問題に対処し、民間事業者・個人等の自立につなげていきます。 (2) 将来性 自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組める施策に重点を置きます。また、今後の社会情勢等を見据えながら施策を展開します。 (3) 地域性 朝来市が持つ、特色ある豊かな地域資源を強みとして活用する施策を展開します。</p> | <p>○第3期国総合戦略では、地方創生の取組をデジタルの力によって加速化・深化させていくこととしているため、施策の展開方法としてデジタルの力の活用することを追加する。</p> |

| | | | |
|---------------------------|--|---|--|
| | <p>(4) 総合性 朝来市に関わる「ひと」を中心に据え、民間企業、金融機関、報道機関等（産官学金労言士）との連携を図りながら、総合的に施策に取り組みます。また、限られた財源や時間内での最大限の成果をあげるために、それぞれが直接、朝来市創生に取り組むことができるような仕組みづくりを進めます。</p> <p>(5) 結果重視 PDCA サイクル のもとで具体的な数値目標を設定し、客観的な指標により事業の効果や進捗状況の検証を行います。また、成果の検証結果等を踏まえながら、随時、第2期市総合戦略の見直しを行います。</p> | <p>(4) 総合性 朝来市に関わる「ひと」を中心に据え、民間企業、金融機関、報道機関等（産官学金労言士）との連携を図りながら、総合的に施策に取り組みます。また、限られた財源や時間内での最大限の成果をあげるために、それぞれが直接、朝来市創生に取り組むことができるような仕組みづくりを進めます。</p> <p>(5) 結果重視 PDCA サイクル のもとで具体的な数値目標を設定し、客観的な指標により事業の効果や進捗状況の検証を行います。また、成果の検証結果等を踏まえながら、随時、第2期市総合戦略の見直しを行います。</p> | |
| <p>3 「第2次朝来市総合計画」との関係</p> | <p>3 「第2次朝来市総合計画」との関係 平成26(2014)年度を初年度とする第2次総合計画は、人口政策を最重要課題として策定した計画です。この計画は、地域の人(朝来市民)も、地域外の人(朝来市ファン)も、朝来市の地域発展の主役であり、計画の対象者とし、これらの対象者を「あなた」に総括し、「あなた」が好きになる(暮らす、訪ねる、楽しむ)まちを将来像としており、「ひと」を基本に据えたものとなっています。また、平成30(2018)年度を初年度とする第2次総合計画後期基本計画においても、その考え方を踏襲しています。</p> <p>このような内容で策定された最上位計画である第2次総合計画の推進及び朝来市創生の実現という戦略の目的を達成する観点から、第2期市総合戦略は、上記1で掲げた基本理念、上記2で掲げた政策5原則を踏まえ、戦略的かつ一体的に施策を進めます。</p> | <p>3 総合計画との関係 平成26(2014)年度を初年度とする第2次総合計画は、人口政策を最重要課題として策定した計画です。この計画は、地域の人(朝来市民)も、地域外の人(朝来市ファン)も、朝来市の地域発展の主役であり、計画の対象者とし、これらの対象者を「あなた」に総括し、「あなた」が好きになる(暮らす、訪ねる、楽しむ)まちを将来像としており、「ひと」を基本に据えたものとなっています。また、平成30(2018)年度を初年度とする第2次総合計画後期基本計画においても、その考え方を踏襲しています。</p> <p><u>以上のように、朝来市は「市民が主役」としてまちづくりを進めており、第3次総合計画もその考え方を引き継ぎ、「ひと」を基本に据え、「人と人がつながり 幸せが循環するまち」を将来像とし、市民一人一人のつながりがまちを前進させる新たな動きを育むとともに、市民一人一人が幸せを実感することで、まち全体が幸せであふれるまちの実現を目指しています。</u></p> <p>このような内容で策定された最上位計画である総合計画の推進及び朝来市創生の実現という戦略の目的を達成する観点から、第2期市総合戦略は、上記1で掲げた基本理念、上記2で掲げた政策5原則を踏まえ、戦略的かつ一体的に施策を進めます。</p> | <p>○第2期市総合戦略の計画期間は、第2次総合計画と第3次総合計画の各計画期間と重なっており、各総合計画では、総合戦略を横断的に取り組む重点戦略として位置づけ、戦略的かつ一体的に推進することとしている。したがって、第2次総合計画と第3次総合計画をまとめて「総合計画」と変更する。</p> <p>○第2次総合計画、第1期市総合戦略及び第2期市総合戦略では、「ひと」を基本に据えている。この考え方は、第3次総合計画でも同様であり、そのことを追記する。</p> |

| | | | |
|--|---|---|--|
| <p>4 SDGs の推進との関係</p> | <p>4 SDGs の推進との関係</p> <p>第2期市総合戦略の推進に向けた取組は、SDGs の推進に大きくつながっています。市民をはじめとする多様な主体の朝来市創生に向けた取組がSDGs の推進に寄与していることを意識しながら、戦略の推進を図ります。</p> <p>また、朝来市創生に向けて各年齢層（ライフステージ）に沿って事業を展開する視点を入れることで、朝来市創生の取組にあわせてSDGs の推進においても持続可能な取組につなげていきます。</p> | <p>4 SDGs の推進との関係 (略)</p> | |
| <p>Ⅲ 今後の施策の方向</p> <p>1 政策の基本目標</p> <p>(1) 成果（アウトカム）を重視した目標設定</p> | <p>Ⅲ 今後の施策の方向</p> <p>1 政策の基本目標</p> <p>(1) 成果（アウトカム）を重視した目標設定</p> <p>第2期国総合戦略では、4つの基本目標と2つの横断的な目標を明確に設定し、それに基づき適切な施策を内容とする政策パッケージを提示するとともに、政策の進捗状況について重要業績評価指標（KPI）で検証し、改善する仕組みであるPDCAサイクルが確立されています。</p> <p>こうした観点から、第2期市総合戦略における政策の基本目標については、朝来市の人口目標を踏まえ、目標年次である令和6（2024）年度において、朝来市として実現すべき成果（アウトカム）を重視した数値目標を設定します。</p> <div data-bbox="652 1218 1448 1759" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><第2期国総合戦略の目標></p> <p>■基本目標</p> <p>①稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする。</p> <p>②地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる。</p> <p>③結婚・出産・子育ての希望をかなえる。</p> <p>④ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる。</p> <p>■横断的な目標</p> <p>①多様な人材の活躍を推進する。</p> <p>②新しい時代の流れを力にする。</p> </div> | <p>Ⅲ 今後の施策の方向</p> <p>1 政策の基本目標</p> <p>(1) 成果（アウトカム）を重視した目標設定</p> <p>第2期国総合戦略では、4つの基本目標と2つの横断的な目標を明確に設定し、それに基づき適切な施策を内容とする政策パッケージを提示するとともに、政策の進捗状況について重要業績評価指標（KPI）で検証し、改善する仕組みであるPDCAサイクルが確立されています。<u>また、第3期国総合戦略では、こうした流れをデジタルの力を活用して加速化・深化させていくこととしています。</u></p> <p>こうした観点から、第2期市総合戦略における政策の基本目標については、朝来市の人口目標を踏まえ、目標年次である令和7（2025）年度において、朝来市として実現すべき成果（アウトカム）を重視した数値目標を設定します。</p> <div data-bbox="1513 1218 2309 1759" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><第2期国総合戦略の目標></p> <p>■基本目標</p> <p>①稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする。</p> <p>②地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる。</p> <p>③結婚・出産・子育ての希望をかなえる。</p> <p>④ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる。</p> <p>■横断的な目標</p> <p>①多様な人材の活躍を推進する。</p> <p>②新しい時代の流れを力にする。</p> </div> | <p>○第2期市総合戦略の施策の方向は、第2期国総合戦略の目標に基づき策定しているが、第3期国総合戦略の考え方も追加することから、第3期国総合戦略について追記する。</p> <p>○計画期間の変更に伴い、目標年次を変更する。</p> |

| | | | |
|--------------------|---|---|--|
| | <p style="text-align: center;"><朝来市の人口目標> 朝来市の人口目標は、「21世紀中頃の人口を概ね20,000人」を維持することとします。</p> | <p style="text-align: center;"><第3期国総合戦略における施策の方向> 地方の経済・社会に密接に関係する様々な分野においてデジタルの力を活用し、社会課題解決や魅力向上を図る重要な要素。</p> <p style="text-align: center;">①地方に仕事をつくる ②人の流れをつくる ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる ④魅力的な地域をつくる</p> <p style="text-align: center;"><朝来市の人口目標> 朝来市の人口目標は、「令和32(2050)年に20,000人」を維持することとします。</p> | <p>○第2期国総合戦略の目標を参考までに記載しているが、同様に、第3期国総合戦略における施策の方向を参考までに追記する。ただし、第3期国総合戦略における施策の方向で示されている①～④は、第2期国総合戦略の流れを継承しているものであり、次項の「第2期市総合戦略Ⅲ1(2)基本目標の設定」は変更する必要はない。</p> <p>○朝来市の人口目標を第3次総合計画で設定した人口指標に変更する。</p> |
| <p>(2) 基本目標の設定</p> | <p>(2) 基本目標の設定 朝来市創生に向けて3つの基本目標を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり (略) ■基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり (略) ■基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり (略) | <p>(2) 基本目標の設定 (略)</p> | |
| <p>2 推進体制</p> | <p>2 推進体制 政策5原則に基づき、まち・ひと・しごとが一体となった創生を図っていくには、自立につながるよう自ら考え、責任を持って第2期市総合戦略を推進することが必要です。そのために、各地域経済・社会の実態に関する分析を行い、中長期的な視野で見直しを図っていくためのPDCAサイクルを確立します。</p> <p>また、第2期市総合戦略の推進に当たっては、具体的なアクションプランに基づいて実行するとともに、アクションプランの推進に当たっては、朝来市ならではの強みを生かすとともに、重なり合う課題に対応し、統合的な視点を持って、総合的に事業を展開することで、事業効果を高め、効率的に事業を進めるなど斬新な発想のもと、先駆的な取組を進めます。さらに、中長期的な視点を持ち、目標の達成のために各年齢層(ライフステージ)に沿った事業を展開することで、計画期間だけではなく、まちに根付いた持続可能な取組につなげます。</p> | <p>2 推進体制 政策5原則に基づき、まち・ひと・しごとが一体となった創生を図っていくには、自立につながるよう自ら考え、責任を持って第2期市総合戦略を推進することが必要です。そのために、各地域経済・社会の実態に関する分析を行い、中長期的な視野で見直しを図っていくためのPDCAサイクルを確立します。</p> <p>また、第2期市総合戦略の推進に当たっては、具体的なアクションプランに基づいて実行するとともに、アクションプランの推進に当たっては、朝来市ならではの強みを生かすとともに、重なり合う課題に対応し、統合的な視点を持って、総合的に事業を展開することで、事業効果を高め、効率的に事業を進めるなど斬新な発想のもと、先駆的な取組を進めます。さらに、中長期的な視点を持ち、目標の達成のために各年齢層(ライフステージ)に沿った事業を展開することで、計画期間だけではなく、まちに根付いた持続可能な取組につなげます。</p> | |

| | | | |
|--|---|---|--|
| | <p>(1) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、国から提供される各種データを活用し、産業や人口等の現状や将来の動向に関し必要なデータ分析を行い、地域の強み・弱みなど特性に即した地域課題等を踏まえながら、必要に応じて戦略を見直します。</p> <p>(2) 第2期市総合戦略に関する意見提言、施策検討への意見提言を行うことを目的として、産官学金労言士に加え、市民代表から構成される朝来市創生会議を設置し、総合戦略推進組織として、施策の効果検証等を行います。</p> <p>(3) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、幅広い年齢層の市民との対話の場を持ちながら、<u>第2次総合計画の基本理念である「創造」(次世代社会の創造)、「絆力」(協働でつなぐ地域力)、「自律」(市民自治の自覚)のもと、市民をはじめ多様な主体と協働しながら取り組みます。</u></p> <p>(4) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、持続可能な開発目標 SDGs の理念(「誰一人取り残さない」社会の実現)を踏まえ、SDGs を原動力として取り組みます。</p> <p>(5) 市役所内では、市長を本部長として第2期市総合戦略の推進及び庁内調整を行うことを目的とした朝来市創生本部、第2期市総合戦略の推進に関する調査研究等を行う職員プロジェクトチームをそれぞれ設置し、朝来市創生会議と連携しながら、第2期市総合戦略の推進に取り組みます。</p> <p>(6) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、国の交付金及び地方創生人材支援制度なども含め、多様に用意された国の支援制度を積極的に活用します。</p> <p>(7) 朝来市が位置する地理的な優位性に鑑み、但馬地域や中播磨地域及び、近隣自治体である丹波市、京都府福知山市などを含むエリアを生活圏域として位置付け、朝来市を生活拠点とした定住促進施策や広域連携を積極的に推進します。</p> | <p>(1) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、国から提供される各種データを活用し、産業や人口等の現状や将来の動向に関し必要なデータ分析を行い、地域の強み・弱みなど特性に即した地域課題等を踏まえながら、必要に応じて戦略を見直します。</p> <p>(2) 第2期市総合戦略に関する意見提言、施策検討への意見提言を行うことを目的として、産官学金労言士や、<u>デジタル関連の施策を実効的なものとするためにデジタル分野に精通する有識者</u>に加え、市民代表から構成される朝来市創生会議を設置し、総合戦略推進組織として、施策の効果検証等を行います。</p> <p>(3) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、<u>第3次総合計画のまちづくりを進めていくうえでの大切な考え方「市民一人一人が主役」「人と人とをつなぐ対話」「未来へのまなざし」のもと、幅広い年齢層の市民との対話の場を持ちながら、市民をはじめ多様な主体と協働しながら取り組みます。</u></p> <p>(4) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、持続可能な開発目標 SDGs の理念(「誰一人取り残さない」社会の実現)を踏まえ、SDGs を原動力として取り組みます。</p> <p>(5) 市役所内では、市長を本部長として第2期市総合戦略の推進及び庁内調整を行うことを目的とした朝来市創生本部、第2期市総合戦略の推進に関する調査研究等を行う職員プロジェクトチームをそれぞれ設置し、朝来市創生会議と連携しながら、第2期市総合戦略の推進に取り組みます。<u>また、デジタルの力を活用した社会課題解決・魅力向上の取組の加速化・深化を図るために、朝来市 DX 推進本部と連携しながら取り組みます。</u></p> <p>(6) 第2期市総合戦略の推進に当たっては、国の交付金及び地方創生人材支援制度なども含め、多様に用意された国の支援制度を積極的に活用します。</p> <p>(7) 朝来市が位置する地理的な優位性に鑑み、但馬地域や中播磨地域及び、近隣自治体である丹波市、京都府福知山市などを含むエリアを生活圏域として位置付け、朝来市を生活拠点とした定住促進施策や広域連携を積極的に推進します。</p> | <p>○国が作成する「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き」では、第3期国総合戦略の改訂に合わせ、「地方版総合戦略の策定・改訂のプロセスにおいては、産官学金労言士で構成する推進組織で審議・検討するなど広く関係者の意見が反映されることが重要」であるところを、「デジタル関連の施策を実効的なものとするため、推進組織には、デジタル分野に精通する団体・有識者等に参画を求めることが重要」と追記している。それに合わせて追記する。</p> <p>○第2次総合計画の基本理念は、第3次総合計画の「まちづくりを進めていくうえでの大切な考え方」に該当するため、第3次総合計画にあわせて変更する。</p> <p>○「地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き」では、第3期国総合戦略の改訂に合わせ、「地方版総合戦略の策定、改訂及び実施に当たり、地方創生担当部局とデジタル担当部局をはじめ、庁内の各部局が連携して総合的に対応することが重要」と追記している。それに合わせて追記する。</p> |
|--|---|---|--|